

「第2次安来市DX推進計画(案)」についての意見募集の結果及び意見に対する安来市の考え方

1. 意見募集の結果について

募集期間	令和8年2月26日(木)から令和8年3月27日(金)まで
資料公開場所	DX推進課(安来市役所安来庁舎) 広瀬地域センター(安来市役所広瀬庁舎) 伯太地域センター(安来市役所伯太庁舎) 安来市ホームページ
意見提出者数	3名
意見項目数	13項目
意見提出者の区分	1 市内に居住する者 2 市内に通勤又は通学する者 3 市内に事務所等有する個人又は法人その他の団体 4 その他対象となる事案について利害関係を有する者
意見の対応区分	1 反映:意見や提案内容を反映するもの 2 反映済:意見や提案内容が既に本案に反映されているもの 3 参考にする:意見や提案内容を今後における取組のために参考とするもの 4 反映又は参考にすることが難しいもの:市の考え方や施策の取組方向等と異なるもの、事業主体が市以外のもの、法令等により市として対応できないもの等 5 その他:上記1~4に当てはまらないもの
意見の取扱い	意見の中に、個人が特定されるおそれがある表現が含まれている場合、個人又は団体等の権利、競争上の地位その他正当な利益に影響を及ぼす恐れがある場合など、必要に応じて置き換え等の加筆修正や削除をしています。

2. 意見の内容と安来市の考え方について

No.	ページ※	意見の内容	提出者	市の考え方	対応
1	45	<p>該当部分におきましては、EBPMの実装および可視化について言及されているものの、現状ではアクションプランを含め、主として個別施策ごとのKPI管理にとどまっている印象を受けます。また、アクションプラン側において具体的な取組内容の記載が確認できない点も踏まえ、施策全体の推進プロセスがやや把握しづらい状況と考えられます。</p> <p>そのため、例えばDX推進に関する包括的なデータの可視化を通じたPDCAサイクルの定着といった取組を、個別施策の一つとして明確にご記載いただくことで、EBPMの実装意図や継続的な改善の考え方がより分かりやすく伝わるのではないのでしょうか。</p>	4	<p>EBPMの実装とデータの可視化によるPDCAの定着は、本計画を実効的なものにする上で極めて重要な視点であると認識しております。</p> <p>ご提案いただいた「包括的な可視化」の取組については、今後のアクションプラン改訂や運用改善のプロセスにおいて具体策として盛り込むことを検討いたします。</p>	3
2	40 45	<p>p.40において基本的な方針が示されている一方で、p.45およびアクションプランに記載されている取組内容につきましては、やや抽象的に受け取られる可能性もあると感じました。方針と具体的な取組との関係が、もう少しイメージしやすくなると、全体像がより明確になるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、J-LISが提供する研修や自治大学校における研修など、自治体において活用しやすい既存の研修内容を例として盛り込むことで、人材育成に関する取組の具体性が高まり、実行段階の姿がより分かりやすく伝わるものと思われれます。</p>	4	<p>人材育成の取組における具体性向上について、貴重なご提案をいただきました。</p> <p>本計画の実行にあたっては、職員が自らの成長や業務変革の姿を明確にイメージできることが重要であると認識しております。ご指摘のJ-LISや自治大学校等の既存研修の活用例は、施策の具体性を高める上で極めて有用な視点であるため、今後のアクションプラン改訂や実際の運用において、具体例として積極的に盛り込むことを検討し、施策の実効性を高めてまいります。</p>	3

※ 第2次安来市DX推進計画アクションプラン(案)の場合は、「Aページ」と表記しています。

No.	ページ※	意見の内容	提出者	市の考え方	対応
3	全体	<p>・高齢者等デジタル機器の操作が不慣れな方への配慮について</p> <p>行政手続きのオンライン化が進むことは市民にとっても便利になると思います。しかしながら高齢者等スマートフォンなどデジタル機器の操作に不慣れな方が取り残されないよう配慮する必要がありますと考えます。</p> <p>計画案にある『デジタル活用支援』について、具体的に各地区の交流センター（公民館）での定期的な相談会の開催や、電話・窓口でのサポート体制の維持を明記してみたいでしょうか。</p>	4	<p>「誰一人取り残されない」デジタル社会の実現は、本計画の最重要事項です。ご提案いただいた各地区の交流センターでの定期的な相談会開催や、電話・窓口でのサポート体制の維持の明記は、高齢者等の不安を解消し、利便性を守るために極めて有効な手段であると認識しています。今後、これらの具体的な支援策を検討し、市民に寄り添った温かみのある DX を推進してまいります。</p>	3
4	全体	<p>・防災・安全対策への活用について</p> <p>現在、災害時の情報伝達方法は告知放送や SNS が中心となっている認識ですが、DX 推進の一環として、「個人の避難状況をリアルタイムで把握できるシステム」の導入を検討してはいかがでしょうか。</p> <p>特に一人暮らしの高齢者や障がい者の方の安否を迅速に確認する仕組みを、今後のアクションプランに具体的に盛り込んでみてはどうでしょうか。</p>	4	<p>災害時における避難状況のリアルタイム把握や、要配慮者の安否確認へのデジタル技術活用は、本計画が掲げる「誰一人取り残されない」社会の実現に向けた極めて重要な課題であると認識しております。</p> <p>ご提案いただいたシステムの導入検討や具体的な運用方法につきまして、今後のアクションプラン改定時に反映できるよう、前向きに検討を進めてまいります。</p>	3
5	全体	<p>・地域経済・産業の活性化について</p> <p>市内企業の DX 支援について、IT ツールの導入補助だけでなく、地元企業同士が DX 成功事例を共有できるマッチングの場を市主導で作ってみたいでしょうか。</p> <p>また、安来市の伝統産業や農業においても、デジタル技術はどう収益向上につなげるか、具体的なコンサルティング支援の拡充を検討してみたいでしょうか。</p>	4	<p>地元企業間の事例共有や、伝統産業・農業への専門的コンサルティング支援のご提案は、地域経済の持続的な発展において極めて重要な視点であると受け止めております。</p> <p>今後、より実効性の高い施策を展開できるよう、ご提案の趣旨を踏まえた検討を進めてまいります。</p>	3
6	A32 A52	<p>生成 AI を含む IT 分野は技術進歩が速く、運用ルール等の更新頻度も高いことが想定されます。これを踏まえ、年間 1 回の研修は最低限の基準として維持しつつ、職員の負担にならない程度で、これを補完する短時間・高頻度の学習機会（例：四半期ごとのテーマ別研修、月次のミニ勉強会、実務課題に即した OJT 型ワークショップ等）を追加で設けることを提案します。</p>	4	<p>技術進歩の速さを踏まえ、継続的な学習機会の確保は重要と認識しております。年 1 回の全体研修を維持しつつ、テーマ別研修やミニ勉強会など、職員の負担を抑えた短時間・高頻度の学習機会の追加を検討してまいります。</p>	3
7	41	<p>デジタルデバインド対策として位置付けられている市民向けスマホ教室について、地元企業等と協力（講師派遣、会場提供、機器提供等）し、開催回数を増やすことを提案します。スマホ教室だけの回答かどうかはわかりませんが、市民アンケートでも「周知不足」「操作が難しい」「教えてくれる機会がほしい」といった声が多く、学習機会の拡充は利用促進に直結すると考えます。あわせて、現行の指標（市民向け講座：年 1 回）について、実態に即した KPI への見直しも検討してください。</p>	4	<p>市民アンケートの結果を重く受け止め、デジタルデバインド対策としての学習機会拡充は不可欠と認識しております。ご提案の地元企業等との連携（講師派遣、会場提供、機器提供等）によるスマホ教室の増回や、実態に即した KPI への見直しについては、今後のアクションプランの改定時や運用において前向きに検討してまいります。</p>	3
8	24 27	<p>市民アンケートでは、AI チャットボットの認知度が 27.7%、ぐると Yasugi 号が 38.4%にとどまっており、サービスが存在しても市民に届いていない実態が明らかになっています。</p> <p>計画では「周知の徹底」が課題として挙げられていますが、具体的にどのような手段・頻度・ターゲット層に向けて広報するのか、アクションプランにより詳細な広報戦略を盛り込むことを求めます。</p>	4	<p>市民アンケートにおけるサービスの認知度不足を重く受け止めております。ご提案いただいた「具体的な手段・頻度・ターゲット層」を明確にした広報戦略については、今後のアクションプランの運用や改定時において、より詳細な内容を盛り込めるよう検討してまいります。</p>	3

※ 第 2 次安来市 DX 推進計画アクションプラン（案）の場合は、「A ページ」と表記しています。

No.	ページ※	意見の内容	提出者	市の考え方	対応
9	全体	<p>【全体所感】</p> <p>本書を拝見させて頂きました。</p> <p>住民目線で検討され、保健・医療・福祉、子育て・教育・文化、防災・防犯、産業・観光、都市基盤・生活など、住民に寄り添ったアクションプランが多く、大変分かり易い印象です。</p>	4	<p>本計画が掲げる「真価・深化・進化」の基本方針に基づき、保健、教育、防災など多岐にわたる分野で住民に寄り添った施策を評価いただき、大変心強く存じます。いただいたご期待に応えるべく、今後のアクションプランの運用や見直しにおいても常に住民目線を堅持し、誰もがデジタルの恩恵を直接実感できる行政サービスの実現と価値創造に邁進してまいります。</p>	5
10	27	<p>【好感を得た項目】</p> <p>① 電子サービス利用状況市民アンケートを根拠に「周知・不安・操作性・支援」を課題設定</p> <p>現在の利用状況をアンケートで分析し、市民の方々のニーズと課題を包み隠さず明確化されており、私も勉強になりました。</p>	4	<p>市民アンケートに基づき「周知・不安・操作性・支援」を課題として明確化した点を評価いただき、大変心強く存じます。本計画は、現状の利用実態を客観的に分析し、市民の皆様の視点に立った施策を展開することを基本姿勢としております。</p>	5
11	28	<p>② 「安来モデル」の独自資産（マルチタスク車両）の活用</p> <p>移動窓口から「医療 MaaS」や「e スポーツ体験」の拠点へと多機能化を目指されており、出向く市政の取組は、地元では感じない取組で羨ましく思います。</p> <p>ご高齢者向けの MaaS 車両と思われるがちですが、e スポーツや学校行事で協業など、地元の若い方の繋がり強化は「地元に残る」・「I ターン」などに繋がる取組だと思います。</p>	4	<p>マルチタスク車両「ぐるっと Yasugi 号」を活用した「安来モデル」への高い評価をいただき、大変心強く存じます。e スポーツや医療 MaaS など、多世代がデジタルの恩恵を享受し、地域の繋がりを深める取組は、若年層の郷土愛醸成や移住・定住の促進にも資する重要施策と認識しております。</p>	5
12	40 41	<p>③ デジタルデバインド解消・AI 業務活用について</p> <p>関わらせて頂いている項目が、重点として捉えて頂いている事に感謝致します。</p> <p>超高齢化社会と言われる時代に突入していく中で、多くのご高齢者様を若い方が支える中で、デジタルデバインド解消＝ご高齢者が情報を得る・問題の自己解決・健康の維持・活性化など、使う事での生活改善が想定されます。</p> <p>AI 業務活用や DX 窓口など、若い世代の人口減少に伴い、現職員の皆様の負荷軽減に繋がり、職員の皆様の ES や離職率低減にも繋がると思います。</p> <p>AI と実業務を併用し、任せるところ・自身で考えるところの線引き（テクニック）など、また研修などご相談ください。</p>	4	<p>デジタルデバインド解消による高齢者の生活の質向上と、AI 活用による職員の負担軽減は、本計画の柱である「深化」と「真価」を具現化する中核的な取組です。高齢者の自己解決支援に加え、AI 共生型組織への転換を通じて ES（職員満足度）向上を図ることは、将来にわたり行政機能を維持するための持続可能な組織基盤の確立に直結するものと、その重要性を改めて認識いたしました。</p>	5
13	—	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書かない窓口施策など、スマホ教室やご高齢者サロンなどで疑似体験や研修など、認知・体験・理解の取組はいかがでしょうか？</li> <li>また、市のイベントにもブースで、タブレットで疑似体験⇒参加賞など、「出来る事を知る」・「楽になる」・「早くなる」を知る事・触る事で、利用者が増えていき、ある程度、利用者が増える事でロコミや、現地で他人の真似をしてなど自然増につながる曲線に向かうと思います。</li> <li>福祉や教育など、ご協業できる事がございましたらご相談ください。</li> </ul>	4	<p>「書かない窓口」の疑似体験やイベント活用による普及啓発のご提案は、市民の心理的ハードルを下げ、利便性を実感いただく上で非常に有効な手法と認識しております。今後のアクションプランの運用や改定において、スマホ教室でのデモ実施やイベントブースでの体験機会創出、官民共創による周知策を前向きに検討し、デジタルの恩恵がロコミ等で自然に広がる体制を目指します。</p>	3

※ 第 2 次安来市 DX 推進計画アクションプラン（案）の場合は、「A ページ」と表記しています。